

幸年期 Café

with

やまなし

緊急避妊薬 みんなで、薬局販売での問題点とその克服について考える ～性暴力被害110番薬局～

薬剤師は患者・地域の方のために、どう考え判断するのか。
私たちは、薬害被害者の話を伺う時、患者さんからの相談を受ける時、「私も飲みました、ワクチン打ちました。私は大丈夫でした。」などと個人軸で聴き話すことがあるが、これでは薬剤師としての責務は果たせないのではないか。なぜ起きたのか、医薬品の安全性を探索し、社会制度の根幹を考え相談者の生活背景まで思うことが重要だと考えます。今回は緊急避妊薬をどう扱うのか、薬剤師の責務を果たすとはなにか、みなさんと考えていきたいと思います。

〈日時〉 令和4年 **6月23日(木)** 19:00～20:30

19:00 ご挨拶 宮原富士子(NPO法人HAP 理事長)

19:05 **緊急避妊薬取り扱いの薬局での現状**
中村由喜(TAYA研究会)

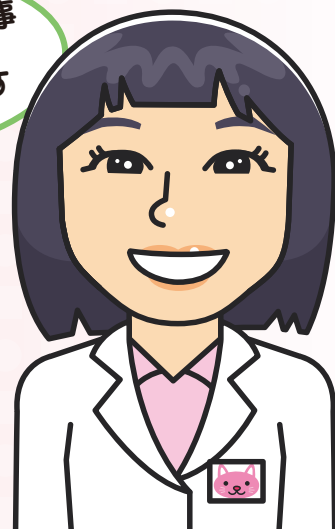
19:10 **緊急避妊薬に関するアンケートなどからの
薬剤師が必要な視点**
宮原富士子

19:40 **家族計画協会での相談業務より
面談で継続受診やOCに繋がられるケースと
うまくいかなかった事例**
杉村由香理
(一般社団法人日本家族計画協会 家族計画協会研究センター センター長)

20:10 カフェ：みなさんと語ろう

緊急避妊薬への対応について、実際に対応した薬局からの話題、そして、まだ対応したことがないけれど、今後その可能性がある薬局からは「不安な点」、双方から、「問題となる点」「解決すべき点」

薬の歴史と哲学大事
くすりは正しく
使いたいものです



〈参加費〉 会員 1,000円(2022年度HAPパスポート利用可)、非会員 1,500円
日本薬剤師研修センター研修受講シールの発行はありません

〈申込方法〉 HAP研修申込管理システム(HAPのHPに掲載もしくは下記QRコード)よりお申し込みください

WEB開催!!



お申し込みは
こちらから

【共催】 特定非営利活動法人 Healthy Aging Projects for Women(HAP)・TAYA研究会

【連絡先】 Tel : 090-9824-8395 (中村)